

7 阪神・淡路大震災と淡路の防災教育

(1) 震度7の地震が町を襲った！

平成7年1月17日午前5時46分。淡路島を震源とする大地震（兵庫県南部地震）が発生しました。下から突き上げられるような激しいゆれで、たくさんの建物が倒れ、多くの人々の命がうばわれました。これが「阪神・淡路大震災」です。

① 震災当時のようすを、作文や写真をもとに振り返ってみましょう。



倒壊した建物

淡路島では、震源の近くの旧北淡町が最も大きな被害を受けました。多くの建物が倒壊し、建物の下敷きになって、たくさんの人が犠牲になりました。

しかし、そんな中でも、地元の消防団や地域の人たちが助け合い、倒壊した建物の中から、生き埋めになった人が助け出されました。

地域の人たちのつながりが、命を守る力になったのです。



避難所のようす

(児童作文)

その時ぼくは目が覚めた。ゆれていることはわかったけど、夢を見ているのだと思った。
お父さんがタンスを持ち上げて、その下敷きになっていたおばあちゃんとお兄ちゃんが助かってよかった。
家の中を見ると、障子がやぶれていたり、ガラスがわれたりした。
(5年生男子)



消防団の活動

多くの建物が倒れ、家を失った人々は一時的な避難所を失い、学校などの避難所に身を寄せました。

避難所では、みんなが共同で生活し、水や食べ物が自由に手に入らない生活でしたが、人々は約束やきまりを守り、おたがいにゆずり合って、行動しました。

② 阪神・淡路大震災の淡路島での被害（合併前の旧市町別）

市 名	死 者 (人)	負傷者 (人)	全壊家屋 (棟)	半壊家屋 (棟)	一部損壊 家屋(棟)
洲 本 市	4	44	203	932	4,989
五 色 町	0	17			
津 名 町	5	42	3,076	3,976	10,032
東 浦 町	0	46			
淡 路 町	1	57			
北 淡 町	39	870			
一 宮 町	13	162			
緑 町	0	14	181	415	1,600
西 淡 町	0	5			
三 原 町	0	4			
南 淡 町	0	5			
合 計	62	1,266	3,460	5,323	16,621

③ 阪神・淡路大震災のつめあと「野島断層」

阪神・淡路大震災は、淡路島北部の「野島断層」を震源として発生した「内陸直下型地震※1」です。この「野島断層」は、江崎燈台付近から旧北淡町の富島地区の間、約10kmにわたって大震災のつめあとを残しました。このような断層を「活断層」といいます。活断層は、今までに動いたことがあり、これからも動くかもしれない断層のことをいいます。今後、野島断層は1000～1500年の間に再び動いて、大きな地震を起こすのではないかとされています。



※1 内陸直下型地震：私たちの住んでいる地表から0～20kmの深さの場所で大きな力がはたらき、その力によって岩盤が破壊されると、その時に地震が発生します。このような地震を「内陸直下型地震」といい、私たちの住んでいる地表からとても近い場所で起こる地震なので、大地震になり、大きな被害をもたらすことがあります

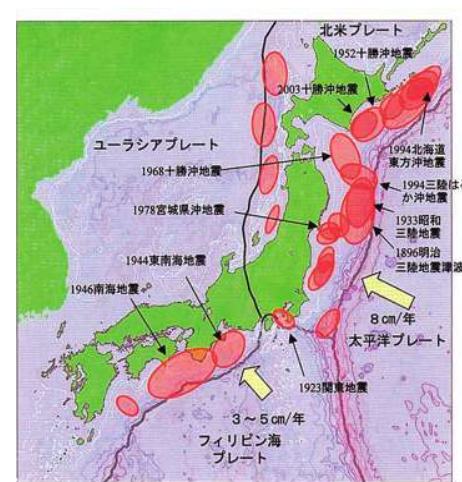
(2) 大津波が町を襲った東日本大震災と南海トラフ大地震

2011年(平成23年)3月11日、太平洋三陸沖を震源とする地震(東北地方太平洋沖地震)が発生しました。マグニチュード9.0の激しい地震のゆれの後、東北・関東地方太平洋側の広い範囲に大津波が押し寄せました。これが「東日本大震災」です。東日本大震災は、三陸沖の太平洋プレートと北米プレートの間で発生した「プレート境界型地震※1」です。

このように地震と津波で大きな被害を引き起こす「プレート境界型地震」は、私たちが住む淡路島の近くでも発生することが予想されます。

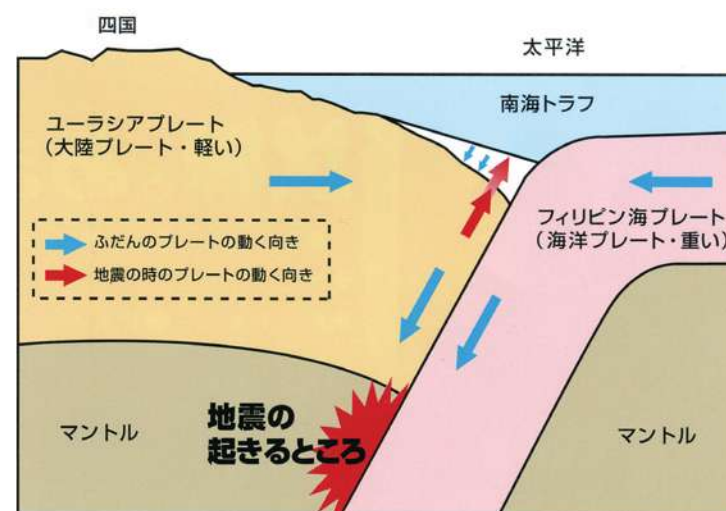
1946年(昭和21年)12月21日、和歌山県潮岬沖を震源とする地震が発生し、淡路島や西日本は、地震と津波によって大きな被害を受けました。これが「南海トラフ大地震(昭和南海地震)」です。

南海トラフ大地震は、東日本大震災と同じ「プレート境界型地震」です。過去にも約100年～150年ほどの間隔をおいて発生しており、1946年に発生した「昭和南海地震」から考えると、いつ南海トラフ大地震が発生してもおかしくない時期と考えられています。



日本海プレートのように

プレート境界型地震



プレート境界型地震(南海トラフ大地震)のしくみ



防災教育副読本「明日に生きる」より

※1 プレート境界型地震:日本列島は、「ユーラシアプレート」「北米プレート」というプレートの上にあります。また海底には「フィリピン海プレート」「太平洋プレート」があり、日本付近でこれら4つのプレート同士がお互いに押し合っています。それらのプレートの境目や、プレート自体にひずみのエネルギーがたまり、それが解放された時に地震が起こります

(3) 淡路の防災教育

淡路島では、阪神・淡路大震災を経験し、その経験を教訓に防災教育に努めてきましたが、2011年(平成23年)には東日本大震災が発生し、地震と津波によって大きな被害を受けることを学びました。また2013年(平成25年)にも震度6弱の地震が発生しました。さらに、現在南海トラフ大地震とそれに伴う津波への備えが必要になっています。

淡路島では、地震をはじめ、さまざまな災害に備えるため、学校や地域で防災教育の取り組みが進められています。

震災・学校支援チーム(EARTH)の取り組み

兵庫県には、災害のあとの学校再開や避難所運営の補助、心のケアをサポートする震災・学校支援チーム(EARTH)があります。EARTHは、学校の先生たちのチームで、淡路にも16名のEARTH員がいます。毎年行われる全島一斉防災訓練、各学校の防災訓練に参加して、防災教室や心のケアの仕方などを教えています。



こどもあんしんネット

小中学校で学校からの緊急の連絡を伝える時に、家の人の携帯電話やパソコンへ、いっせいにメールで用件を伝えるシステムです。これにより、連絡が素早く伝わり、平成25年4月13日の地震の時も安否確認等に使用され、電話の連絡網とあわせて使われています。

防災マップ「としまっぷ」

県立淡路高等学校では、学校のある淡路市富島地区の安全を守る防災マップを作っています。地域の人たちの意見を取り入れて、津波避難場所や危険な場所、お年寄りや手助けが必要な人が住んでいる所などが分かるようにしています。



【おそろしい地震や津波から身を守るには、どうすればよいでしょう。】

- ゆれを感じたら、まず頭をまもろう。ゆれている間は、無理に動かない。
- ゆれがおさまったら、あぶない所からはなれよう。
- 地震の後は、津波が来る。できるだけ早く、できるだけ高いところへひなんしよう。

自分の命を守るために、最善をつくそう！

福良港津波防災ステーション「うずまる」

南あわじ市福良にあります。職員の方と津波への備えについて体験しながら学ぶことができる施設です。



北淡震災記念公園

淡路市野島地区にあります。野島断層や施設を見学したり、語り部の方から震災当時の話を聞くこともできます。



「学ぼう災教育」展開事業

淡路県民局では、淡路島の学校や地域、会社等が防災訓練を行うときに、必要な費用の一部を補助しています。淡路島の多くの学校がこれを利用し、小中学校が合同で避難訓練を行ったり、津波を想定した高台への避難訓練を行ったりしています。

